

令和3年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

| | | | |
|---------|---|-----|----|
| 大 学 名 | 広島大学 | タイプ | B① |
| 事 業 名 | インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成 | | |
| 海外の相手大学 | 北京師範大学、長春大学、韓国外国語大学校、インドネシア教育大学、カセサート大学 | | |

〔評価コメント〕

本事業計画は、広島大学が多様な背景をもつ学生や教職員が学習・研究できる環境整備を進めてきたこれまでの実績に基づき、「多様性をはぐくむ自由で平和なアジア圏・国際社会」に、国連SDGsの達成、Society 5.0の実現へと続く取組を進めていくという点において独創的である。ダイバーシティ&インクルージョンの実現という、ともすれば「人文社会科学領域の問題」として捉えられる傾向にある課題に対して、文理融合、分野横断的で全学的な取組を構想している。平和学や国際協力等の広島大学が長年培ってきた強みを発展的に活かした取組である点や、アジアの大学と「障害学」、「SDGs」、「ダイバーシティ」、「ジェンダー／マイノリティ」、「宗教」といった領域での連携を計画している点で優れており、意欲的なプログラムであると評価できる。

特に、東南アジア留学生等の就業者の多い広島の特徴が活かされ、若い世代の交流において宗教や民族の幅が広がる意義は大きい。障害を持つ外国人学生や地元自治体の特別支援学校がプログラムに参加する点も本事業のテーマに合致した取組であり、更に、インクルーシブ社会の実現に向けて積極的に取り組んでいる地元の企業・団体・自治体との産官学連携が活用され、地域社会における受入・派遣環境が整えられている点も、持続可能性という点で高く評価できる。

また、参加学生の達成目標である6つのコンピテンシーに特徴が認められ、本事業独自のコンピテンシー評価、BEVIの導入やSERUへの加入等、評価体制が充実している。

一方で、派遣学生・受入学生ともに短期間の交流形態が大部分を占め、異文化理解において十分な成果を得られるのかが懸念され、部分的なプログラム改訂等の検討が必要である。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。